

# 令和5年度 業績評価結果の概要について

令和6年6月26日  
全学業績評価委員会

## ○実施の目的

琉球大学では、以下の3点を通じて教員の教育研究意欲を一層向上させることを目的として、教員の業績評価制度を令和2年度から導入している。

- ・ 目標設定を通じて、大学として期待する成果や行動についての共通理解に資する。
- ・ 評価結果のフィードバック等により、人材育成に資する。
- ・ 学部長等と個々の教員の円滑なコミュニケーションの向上に資する。

## ○実施概要

令和5年度業績評価については、以下のとおり実施した。

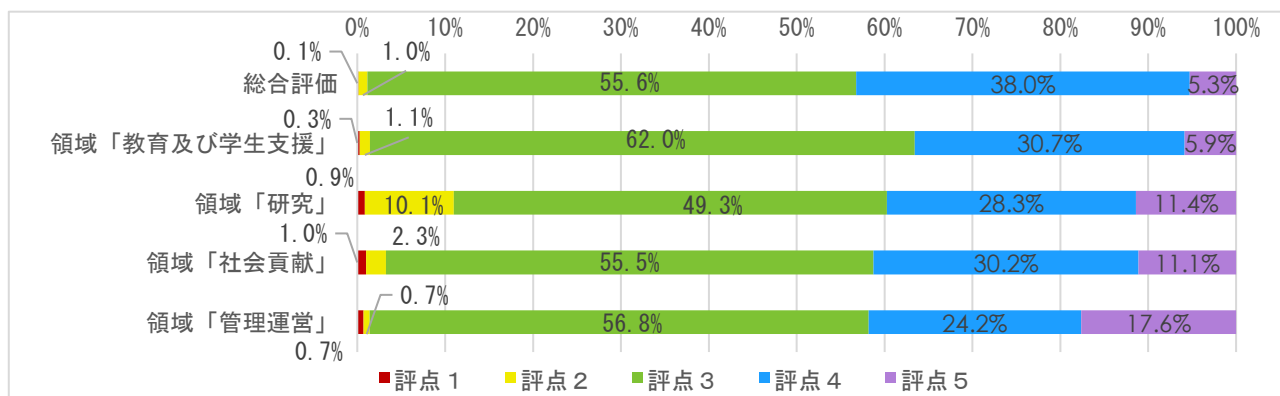
- ・ 評価期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日
- ・ 評価領域：「教育及び学生支援」「研究」「社会貢献」「管理運営」の4領域の業績を対象に評価。

※医学部、医学研究科、大学病院及びグローバル教育支援機構については、上記に加え「診療」の評価領域を設定している。

- ・ 評価対象部局：人文社会学部、国際地域創造学部、教育学部、教育学研究科、教職センター、理学部、工学部、医学部、医学研究科、大学病院、農学部、法務研究科、熱帯生物圏研究センター、研究推進機構、グローバル教育支援機構、地域連携推進機構、情報基盤統括センター、大学評価IRマネジメントセンター
- ・ 評価方法：被評価者は年度当初に目標設定、年度末に5段階の自己評価を行った。また、それを記入した評価調書を学部等業績評価委員会に提出し、学部等業績評価委員会及び全学業績評価委員会にて調書の審査を行った。

## ○評価結果

評価対象教員703名について、評価を実施した。評価結果は以下のとおり。



※各評点は小数第一位で四捨五入を行っているため、合計が100%とならない場合がある。

### 【参考】 評価基準

- 評点5 被評価者の職位等に照らして標準を大きく上回ると考えられる業績
- 評点4 被評価者の職位等に照らして標準を上回ると考えられる業績
- 評点3 被評価者の職位等に照らして標準的と考えられる業績
- 評点2 被評価者の職位等に照らして標準を下回ると考えられる業績
- 評点1 被評価者の職位等に照らして標準を大きく下回ると考えられる業績

## ○評価結果に対する分析

前年度の令和4年度評価と比較すると、すべての領域で評点3の割合が減少し（総合評価は5.8ポイント、領域「教育及び学生支援」は4.9ポイント、領域「研究」は5.4ポイント、領域「社会貢献」は5.6ポイント、領域「管理運営」は0.3ポイント減）、評価の中心化傾向（すべて評価を3とする傾向）が改善されている。

また、（研究領域は微増であるものの）すべての領域において評点4及び5の割合が増加している。これは、各教員がより評価を意識した活動を行うようになったことで、パフォーマンスが向上したものと考えられる。一方で、評価基準は継続的に見直しが行われており、年度間の評点分布の差で教員のパフォーマンスを直接的に比較できるものではないことにも留意する必要がある。

なお、今後も評価をより実質的なものにしていくためには、評点の分布も意識した評価基準の継続的な見直しを続けていく必要がある。

### 総合評価及び各領域における前年度（令和4年度）との評価分布の比較

